

『中の根本の言葉を章とした知慧（根本中論）』

（第二章）

先ず、過ぎた（道）を行かず、
過ぎていない（道）をも行くことは無い。
過ぎたと過ぎていない（道）以外に、
歩む（道）を知るとはならない。 1

或る所へ動くことがそこへ行くことであり、
それも或るものの歩みにおいて、
動きは過ぎたのではなく、過ぎていないのではない。
それ故に、歩むに「行く」はある。 2

「歩む」を「行く」であるとは、
如何様であれば合理となろうか。
「行く」が無い時、
「歩む」に合理は無い故である。 3

某の主張では「歩む（道）を行く」という。
その「歩む」には、「行く」が無いという
背理となる。何故ならば、
「歩む（道）」を「行く」のである故である。 4

「歩む」に「行く」が有るならば、
「行く」が二つになる背理となろう。
それが歩むとなったものと、
そこに行くというものである。 5

「行く」が二つになる背理となれば、
行く者もまた二人となる。
何故ならば、行く者が無ければ、
「行く」は合理とはならない故に。 6

もし、行く者が無くなれば、
「行く」は合理ではなくなる。
「行く」が無ければ、行く者が、
まさしく有ると、何処でなろうか。 7

或る所へ動くことがそこへ行くことであり、それも、何故ならば、歩みにおいて、動きは過ぎたのではなく、過ぎていないのではない。

それ故に、歩むに「行く」はある。（顕）

「歩む」に「行く」が有るとは、
如何様であれば合理となろうか。

「行く」が無い時、

「歩む」に合理は無い故である。（仏）

某の主張では「歩む（道）を行く」という。
その「歩む」には、「行く」が無いという背理となる。何故ならば、

「歩む」を理解する故である。（仏）

「歩む」に「行く」が有るならば、
「行く」が二つとなる背理となろう。

その「歩み」というそれと、

それを行くというものである。（仏）

「行く」が二つになる背理となれば、
行く者もまた二人となる。

何故ならば、「行く」が無ければ、

行く者は合理とはならない故に。（顕）

先ず、行く者は行かず、
行く者でないものは行くのではない。
行く者と行く者でない者より他の
第三の何者が行くとなろうか。 8

「行く」が無い時に、
行く者が合理とならないならば、
先ず、「行く者が行く。」とは、
如何様に合理であるとなろうか。 9

或る説では、「行く者が
行く」という。それには、「行く」の無い
行く者である背理となる。
行く者が行くと主張する故である。 10

もし行く者が行くとなれば、
「行く」が二つになる背理となる。
それによって行く者として現れるものと、
行く者となってから、行くことである。 11

過ぎた（道）に「行く」の始めは無く、
過ぎていない（道）にも「行く」の始めは無い。
歩む（道）に始めが有るのでなければ、
何処で「行く」を始めようか？ 12

「行く」を始める以前に、
何処で「行く」を始めるとなろうか。
歩む（道に）は無く、過ぎた（道に）は無い。
過ぎていない（道）を歩くことが何処にあろうか。 13

「行く」の始まりが一切の様相において、
現れることがまさしく無いならば、
過ぎたとは何であるか？歩むとは何であるか？
過ぎていないとは何であるか？尽く考察したまえ。 14

先ず、行く者は居らず、
行く者でない者は居るのではない。
行く者と行く者でないものより他の、
第三の何が居るとなろうか。 15

先ず、行く者は行かず、
行く者でないものは行く者ではない。
行く者と行く者でない者より他の
第三の何者が行くとなろうか。（仏）

先ず、「行く者が行く。」とは、
如何様に合理であるとなろうか。
「行く」が無ければ、行く者は
如何なる時も、合理とはならない。（仏）

或る時、「行く」が無ければ、
行く者は合理とならないならば、
先ず、「行く者が居る。」とは、
如何様に合理となろうか。 16

先ず、「行く者が居る。」とは、
如何様に合理となろうか。
「行く」が無ければ、行く者は
いつ時も合理とはならない。(仏)

歩む(道)から止まるとならず、
過ぎた(道)と、過ぎていない(道)からでもない。
「行く」と、「入る」と、
「止まる」も、「行く」に等しい。 17

その「行く」と行く者は、
そのものであるとも適わない。
「行く」と行く者は、
まさしく他であるとも適わない。 18

もし、「行く」であるもの、
そのものが行く者であるとなれば、
行為者と行為そのものも、
全く同一になる背理となる。 19

もし、「行く」と行く者が、
まさしく他であると尽く考察すれば、
行く者の無い「行く」と、
「行く」の無い行く者となろう。 20

まさしく同一事物か、
まさしく他事物として、
成立したものが有るのでなければ、
その二つが成立したとは如何様に有ろうか。 21

或る「行く」によって、行く者であると顕かになる、
その「行く」は、行くのではない。
何故ならば、「行く」の以前には無い。
何が何処へ行くとなろうか。 22

或る「行く」の行く者であると顕かな
その「行く」は、行くのではない。
何故ならば、「行く」の以前には無い。
何が何処へ行くとなろうか。(仏)

或る「行く」によって、行く者であると顕かになる、
それより他が行くのではない。
何故ならば、一人だけの行く者において、
「行く」が二つとは不合理である。 23

根本中論

行く者であるとなった者は、
三様相の「行く」を、行くことをしない。
そうではないとなった者も、
三様相の「行く」を、行くことをしない。 24

そうであり、そうではないとなった者も、
三様相の「行く」を、行くことをしない。
それ故に、「行く」と行く者と、
行かれるもの（道）も、有るのではない。 25

「行き来を考察する」という、第二章である。

※（仏）は、『根本中論』チョコロ訳（『ブッダパーリタ』に引用された旧訳）で、パツァブ訳（新訳）と異なる記述。

（顕）は、パツァブ訳（新訳）ではあるが、『根本中論』本論と記述が異なる『顕句論』で引用された偈を示す。

DECHEN 訳